

令和5年度 英語学習実施状況について

金沢市立鞍月小学校

①小学6年生 英語学習についてのアンケート(令和6年1月実施)

(%)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語の勉強が好きだ。	38.0	42.0	19.0	1.0	
問2	英語の勉強は大切だ。	80.0	18.0	1.0	1.0	
問3	ショートタイムの時間は英語の勉強に役立っている。	43.0	51.0	4.0	2.0	
問4	英語の授業の内容が分かる。	57.0	37.0	5.0	1.0	
問5	先生や友達に英語で質問することができる。	41.0	46.0	12.0	2.0	
問6	先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる。	39.0	47.0	12.0	2.0	
問7	アルファベットの大文字が書ける。	77.0	21.0	2.0	0.0	
問8	アルファベットの小文字が書ける。	72.0	23.0	4.0	0.0	
問9	教科書やピクチャーディクショナリーの単語や英文を書き写すことができる。	85.0	13.0	3.0	0.0	
問10	教科書の単語や英文を読むことができる。	45.0	45.0	9.0	2.0	

②指導改善の具体策

- ・学習内容の定着を図りながら、聞き取れたことを評価し、児童の肯定感を高めていく。
- ・コミュニケーションを行う目的、場面、状況を明確にする。
- ・国際交流、学校間の交流などの機会を定期的に設定し、児童が主体的に取り組めるようにする。
- ・今後も英語インストラクターと指導内容や方法について打ち合わせを行い、指導改善を行う。
- ・繰り返し聞かせたり、発話させたりすることで段階的に学びを深めていけるようにする。

③学校関係者評価

(1)英語に対する意識について

以前に比べ問1、問2とも肯定的評価が大きく増えているのはとても喜ばしい傾向である。一方で、「英語の勉強が好きだ」については、「そう思わない」という回答が20%あるのは、改善の余地があると言えよう。

(2)英語学習に対する理解度について

問3「役立っている」、問4「内容が分かる」に関しても94%という高い数値が見られ、子どもたちの理解も進んでいると評価される。

(3)聞く、話す学習について

問5「質問することができる」、問6「英語で答えることができる」については、85%を超える児童が肯定的評価をしているが、他の項目と比べるとまだ苦手意識が強いようだ。

先日英語の授業を参観する機会があった。友達に誕生日を聞いたり、好きなものを訪ねたりする場面を設定し、英語を使う必要感を持たせるなど学習場面がよく工夫されていた。苦手な子にとっては、基本の句型をていねいに繰り返し、自信をもって友達とコミュニケーション活動に入るなど、苦手意識の払拭に心がけることが大切だと感じた。

(4)書く活動について

問7、問8の「アルファベット」が書けるかどうか、問9の「単語や英文を書き写すことができるか」を尋ねた項目について、いずれも95%を超える児童が肯定的評価をしており、書く活動が定着していることがうかがわれる。

(5)読む活動について

問10「英文を読むことができるか」については、「そう思う」と回答した児童が45%という結果が示すように、やや苦手としている児童が存在していることが推察される。

「聞く話す」もそうだが、声に出す活動に抵抗感のある児童に対し、何らかの手立てを必要としているのではないかと推察される。これは英語の学習だけの問題ではなく、他の教科でも「話す活動」を大事にした学習が求められているのかもしれない。